

## 新型コロナウイルス感染症関連での食肉業界の状況等(要約)

公益財団法人日本食肉流通センター

### A 食肉業界をめぐる状況等

(今年11月までの状況)

新型コロナウイルス感染症問題発生により、国内の食肉に対する需要が外食から中食・内食へ移行する割合が高まり、8月以降も継続しています。

外食産業の売上げは、4月を底として回復しつつありますが、全体としては、10月時点でも昨年を下回っています。

一方、家庭内消費の増加を示すスーパーでの食肉の売上げが4～5月頃は2割前後増加しましたが、10月には1割程度の増加となりました。

食肉卸売業者は、外食などの販売先の営業の好・不調に対応するため政府のコロナ対策に参加することおよび販売好調なスーパーへの販促を図ることなどによって対応しています。

### B 牛・豚の部分肉価格の動向

牛部分肉価格は、格付規格や部位によって異なりますが、概ね4～6月を底として大きく下落し、その後、緩やかに回復しつつあり、直近ではロインなどの高価格部位を除いて、昨年水準に近付きつつあります。

ロインなどの高価格部位の価格はホテルなどでの需要が回復しないことなどから依然として他の部位と比べ昨年同期比の価格減少率が大きいままです。

豚部分肉価格は、今年4月以降10月まで全ての部位で昨年を上回って推移しています。

### C 牛肉輸出

牛肉の輸出は、今年1月以降5月まで数量及び金額とも昨年同期比で減少しましたが、6月以降増加に転じ、10月には食料品全体の増加率を超える増加率となりました。

輸出単価は国内価格等を反映し下落しましたが、輸出数量の5割超を占めるロインの輸出単価は国内の価格減少率に比べ小さい減少率です。

(本件に関するお問い合わせ先)

公益財団法人日本食肉流通センター 情報部 沖、高橋

TEL 044-266-1172 [y-takahashi@jmtc.or.jp](mailto:y-takahashi@jmtc.or.jp)

以 上